

平成 22 年度 大学院 FD セミナー参加報告

健康福祉学部/大学院人間健康科学研究科教授

渡辺 賢

開催日時：平成 22 年 7 月 10 日 13:35～15:00

タイトル：「大学院における FD 活動と TF 制度」

清水 一彦先生（筑波大学副学長）

ご自身の研究についてのご紹介ののち、筑波大学の人事改革の動きを話された。人件費削減の中での職・級の弾力化、定年弾力化、サバティカル導入等の制度改革、又、給与査定への教員評価適用の開始等を述べられた。

<第 1 部 大学院改革と教育の質保証>

大学改革の特徴と問題点を話された。特に改革の三無主義：金が無い、理念が無い、学生がいない、からの脱却が必要であることを強調された。大学院運営は従来の講座ではなく Department 制である必要があるが教育課程と教員組織の分離がなされていないことが問題。現在の専攻は専門(discipline)といえるものではなく、discipline 再生のためにはカリキュラム・人事・研究を責任を持って行う必要があり、それを行うのが Department の役目であることを述べられた。

<第 2 部 筑波大学・人間総合科学研究科 FD の設計と実践について>

筑波大学での経験をお話しされた。まず、FD 実施体制を整備し大学機能全般に FD を行うことを企画した。実際には平成 19、20 年度に、大学院教育実質化に向けた教育共同体創生を意図して「大学院教育の実質化を目指す FD の組織化と実践活動」を実施した。改革に対する実践能力、マネジメント能力、教育革新創生能力の涵養を目的として、5 つの種類の FD：研究型・教育型・管理運営型・支援業務型・学生参画型を開催し、特に学生参画型 FD においては、FD 大賞、奨励賞等の懸賞事業を行った。

<第 3 部 人間総合科学研究科における TF(Teaching fellow)制度の設計>

研究科プログラムとして新たに設計。Teaching assistant(養成段階)→TF(採用段階)→Teaching professor(研修段階)という流れの中で、「教育者としての自覚と準備」を促し教育力・研究力・マネジメント力を兼備した大学人を育成すること意図し、具体的には教育目標設定、目標達成のための行動、評価指標決定、教育評価基準設定それぞれの能力を育成することとした。対象者は医学課程の後期博士過程に在籍する大学院生の希望者で、TA 経験者で事前事後指導に参加可能な者を所属専攻から推薦させ、TA 活動実績報告・シラバス作成等を基に選考を行った。現在筑波大学では TF が 50 名在籍していることを話された。

<第 4 部 FD の現状と課題>

FD の今後について、大学制度論・教員評価論もふまえて話をまとめられた。FD は現在、多くの大学で啓蒙的な伝達講習方式に留まっており、協働的な相互研修方式、更に FD の組織化・システム化に至っている機関は極めて少ない。FD の制度化は、教員が忙しすぎるために難しい。カリキュラム厳選、単位制度の公正運用を行い（効率化）、若い教員に対して FD を行い彼らを育てていくことが必要である。